津波浸水予測図　市町村別図(縮尺　1:35,000)　函館市(函館)(全2図面)

※津波浸水予測図の説明

■下記の津波を想定津波とし、それぞれの津波ごとに、構造物が「効果あり」・「効果なし」の2パターンのシミュレーションを行ないました。（全6ケース）
■図面には、全6ケースのうち、最大の浸水範囲、浸水深(注１)および最短の影響開始時間(注２)を表示しています。
■図面には、代表する地点周辺における最大遡上高（注１）と影響開始時間（注２）を表示しています。
■地震の震源が想定より陸地に近かったり、想定を超える津波が来襲するなど、条件が異なる場合には、ここで示した時間より早く津波が来襲したり、遡上高が高くなったり、浸水範囲以外でも浸水する可能性があります。

［シミュレーション条件］

（１）想定津波
　十勝沖・釧路沖の地震津波　　三陸沖北部の地震津波　　500年間隔地震津波
（２）構造物
　効果あり　：　防波堤、海岸堤防、防潮堤、河川堤防などの施設が、全て有効に機能したケース。
　効果なし　：　防波堤、海岸堤防、防潮堤、河川堤防など施設の機能が失われたと想定したケース。
（３）潮　　位　：　朔望平均満潮位　（各月の最高満潮面を平均した潮位）

※注１　最大遡上高と浸水深（図１参照）
　最大遡上高は、各地区で津波が到達する最高の標高とします。浸水深は、各地の地表面からの水面の高さです。
※注２　影響開始時間と津波到達時間（図２参照）
　影響開始時間は、地震発生から、海岸・海中の人命に影響が出る恐れのある津波による水位変化(初期水位から水位変化が±20cm)が生じるまでの時間です。
　津波到達時間は、地震発生から、津波第一波のピークが海岸に到達するまでの時間です。

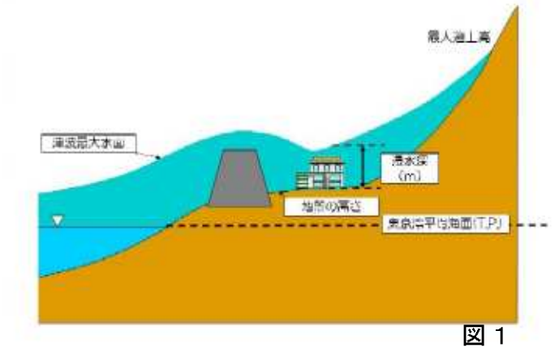


図１

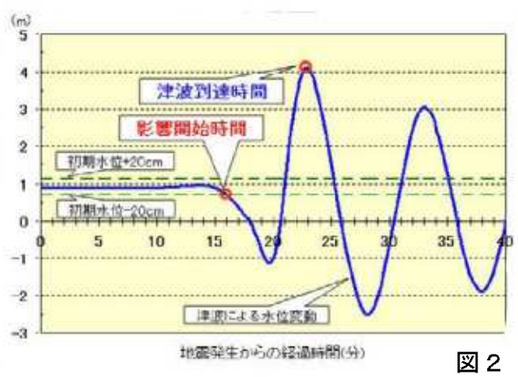
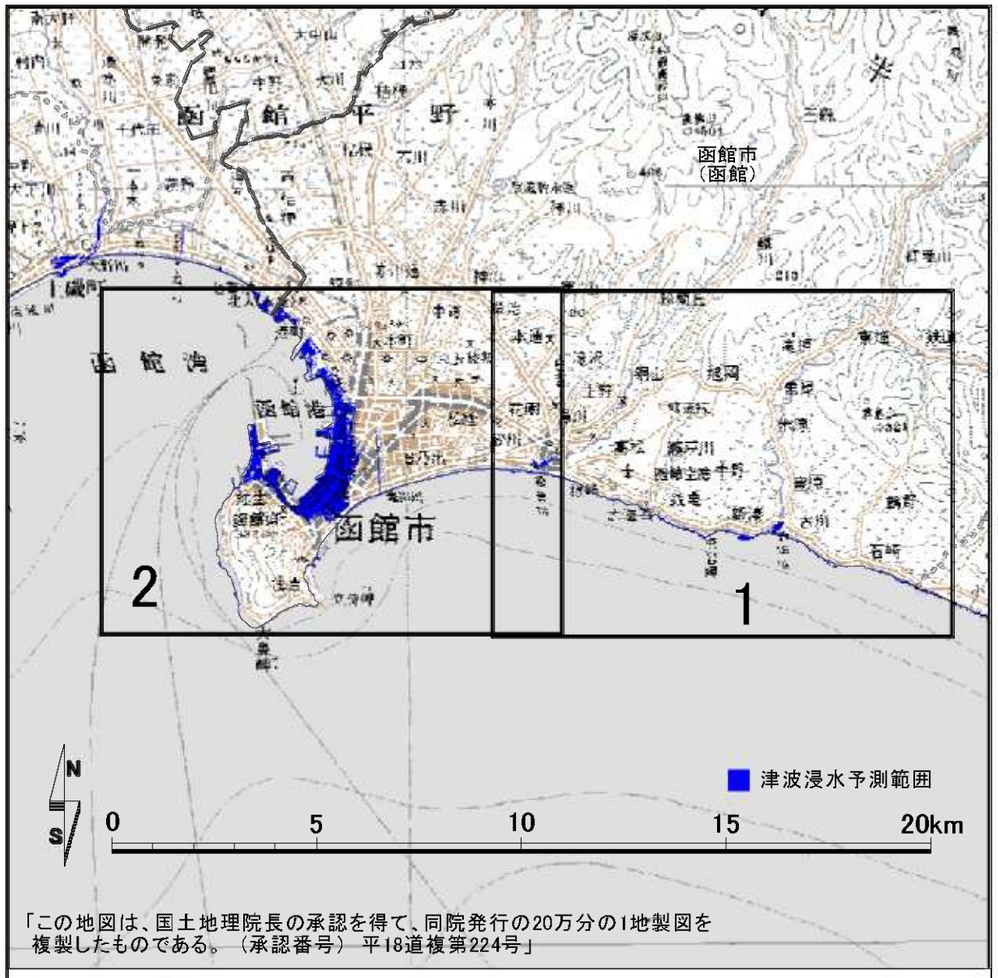


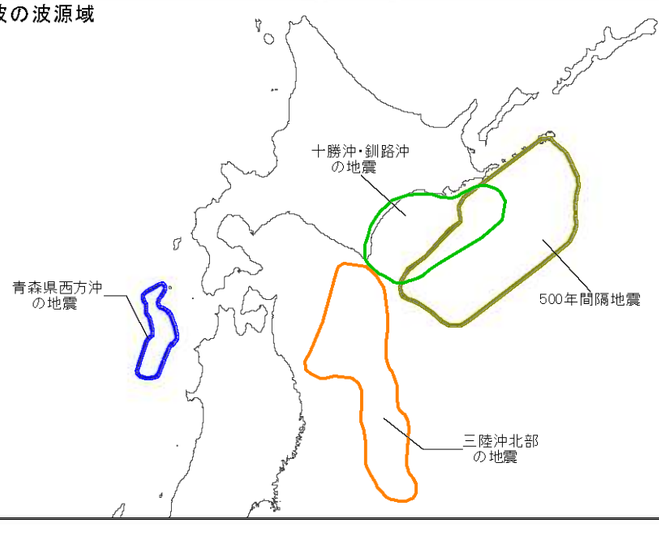
図２

被害想定結果							
想定項目	想定地震	十勝沖・釧路沖		三陸沖北部		500年間隔	
	構造物条件	なし	あり	なし	あり	なし	あり
建物被害（単位：棟）	床上（全壊）	0	0	519	223	0	0
	床上（半壊）	250	165	1,323	1,003	262	167
	床上（軽微）	585	397	2,674	1,620	530	234
	床下浸水	702	653	2,584	1,801	627	391
人的被害（冬季）（単位：人）	死者数	8	5	68	45	9	5
	重傷者数	9	6	81	50	10	6
	中等傷者数	22	15	196	121	23	14
人的被害（夏季）（単位：人）	死者数	15	10	156	103	14	8
	重傷者数	17	11	188	112	15	8
	中等傷者数	40	26	455	271	36	20

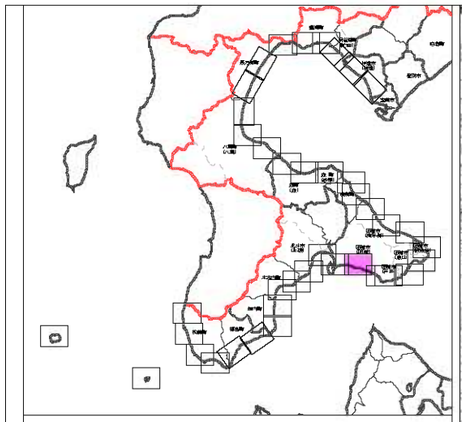


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地製図を複製したものである。（承認番号）　平18道複第224号」

想定津波の波源域



津波浸水予測図　市町村別　　函館市(函館)（1／2）



N
S

500　0　500　1000　1500m

縮尺　1　：　35,000

凡　例

津波浸水予測範囲
3つの想定津波の最大浸水深(m)

500年間隔地震
三陸沖北部の地震
十勝沖・釧路沖の地震

- 0.5m未満
- 0.5m以上　～　1.0m未満
- 1.0m以上　～　2.0m未満
- 2.0m以上　～　4.0m未満
- 4.0m以上

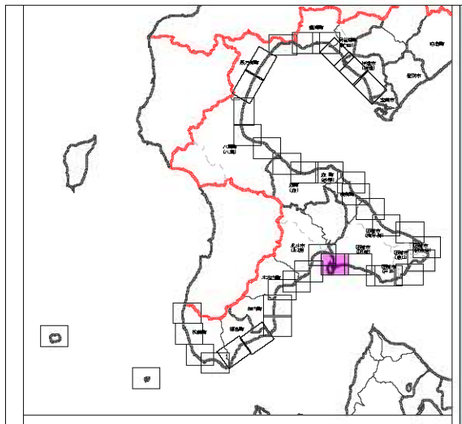
各地で予測される最大遡上高・影響開始時間

地区名
三陸沖北部の地震の最大遡上高(影響開始時間)
十勝沖・釧路沖の地震の最大遡上高(影響開始時間)
500年間隔地震の最大遡上高(影響開始時間)



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号）　平18道複第224号」

津波浸水予測図　市町村別　　函館市(函館)（2／2）



N
S

500　0　500　1000　1500m

縮尺　1　：　35,000

凡　例

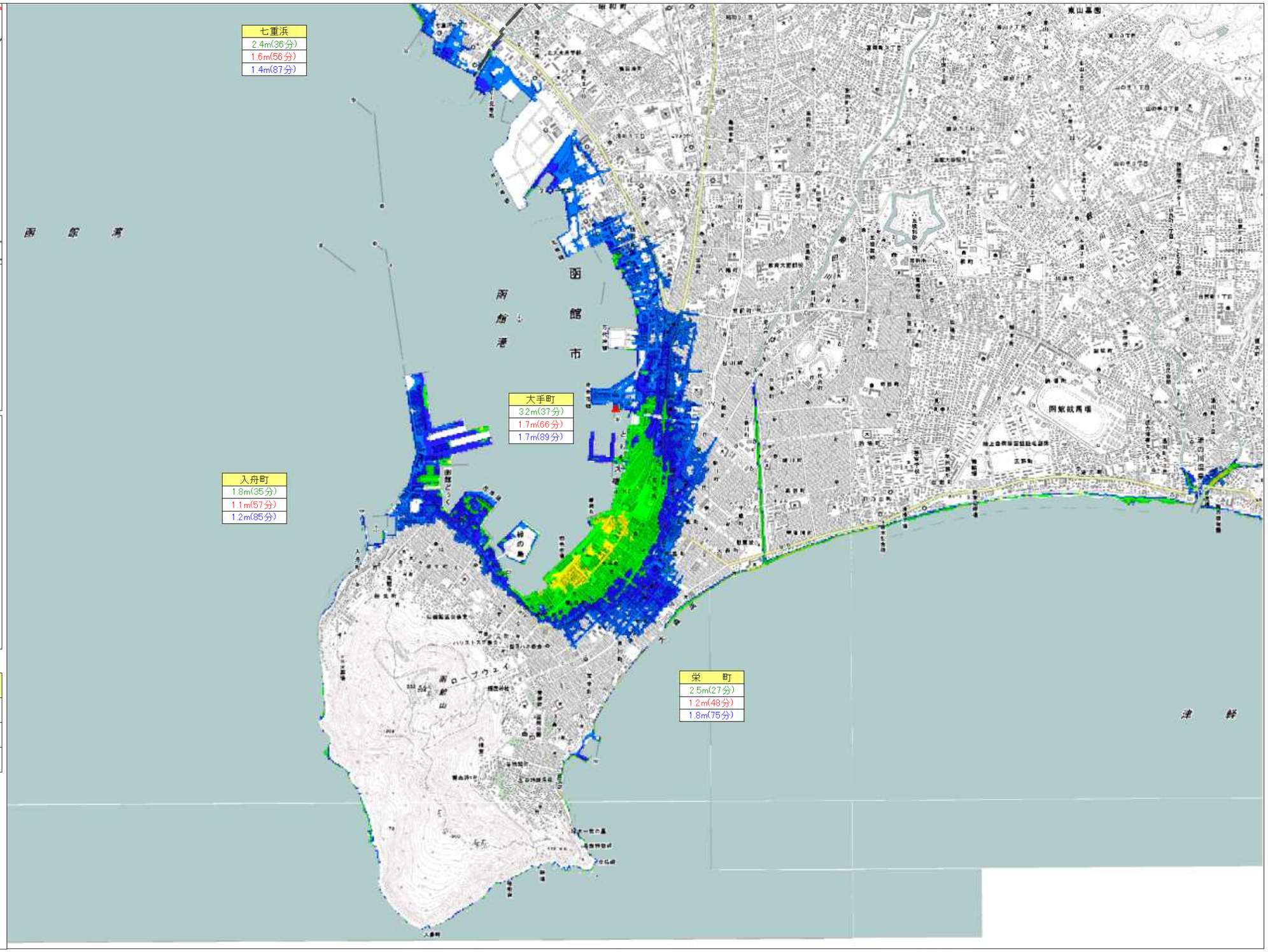
津波浸水予測範囲
3つの想定津波の最大浸水深(m)

500年間隔地震
三陸沖北部の地震
十勝沖・釧路沖の地震

- 0.5m未満
- 0.5m以上　～　1.0m未満
- 1.0m以上　～　2.0m未満
- 2.0m以上　～　4.0m未満
- 4.0m以上
- 検潮所

各地で予測される最大遡上高・影響開始時間

地区名
三陸沖北部の地震の最大遡上高(影響開始時間)
十勝沖・釧路沖の地震の最大遡上高(影響開始時間)
500年間隔地震の最大遡上高(影響開始時間)



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号）　平18道複第224号」